

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						箭柏 えり			
解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる運動器を教授する。</p>									
<p>[到達目標] 骨の名称、骨の構成を学び、理解することができる。</p>									
[使用教材、参考文献等] 解剖学 第2版					[準備学習・時間外学習] 復習を推奨する。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 骨の役割・形状による分類・骨の構造				骨の形状による分類を説明することができる。 骨の構造を説明できる。				
2	骨の発生と成長・骨の連結				①骨の発生過程を説明できる ②骨の成長過程を説明できる。				
3	脊柱の役割・構成・構造①				脊柱の基本構造を説明できる。				
4	脊柱の構造②・弯曲・連結				脊柱の連結について説明できる。				
5	確認試験/胸郭				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
6	上肢骨①				上肢帯と自由上肢骨の構成を説明できる。				
7	上肢骨②				上肢の関節について説明できる。				
8	下肢骨①				下肢帯と自由下肢骨の構成を説明できる。				
9	下肢骨②				下肢の関節について説明できる。				
10	頭蓋①				脳頭蓋・顔面頭蓋の構成について説明できる。				
11	頭蓋②				頭蓋冠・頭蓋底の構成について説明できる。				
12	頭蓋③				頭蓋泉門・顎関節について説明できる。				
13	骨の生理				骨形成と骨吸収、骨に関わるホルモンについて説明できる。				
14	期末試験				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
15	期末試験の復習				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項]				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名								箭柏 えり	
解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる運動器を教授する。</p>									
<p>[到達目標] 筋の名称、筋の構造を学び、理解することができる。</p>									
[使用教材、参考文献等] 解剖学 第2版					[準備学習・時間外学習] 復習を推奨する。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 骨格筋の基本構造				筋の作用を説明できる。 筋の補助装置を説明できる。				
2	頭部の筋				咀嚼筋を説明できる。				
3	頸部の筋				頸部の三角を説明できる。				
4	胸部の筋				呼吸運動を説明できる。				
5	確認試験/腹部の筋				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
6	背部の筋				脊柱起立筋を説明できる。				
7	上肢の筋①				上肢帯の筋を説明できる。				
8	上肢の筋②				上腕の筋・前腕の筋(前半)を説明できる。				
9	上肢の筋③				前腕の筋(後半)・手の筋を説明できる。				
10	下肢の筋①				下肢帯・大腿の筋を説明できる。				
11	下肢の筋②				下腿・足の筋を説明できる。				
12	筋の生理①				①骨格筋・平滑筋・心筋の特徴を説明できる。 ②平滑筋・心筋の構造を説明できる。				
13	筋の生理②				骨格筋の収縮について説明できる。				
14	期末試験				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
15	期末試験の復習				効果測定を実施し、自身の理解に至らなかった点を把握する。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項]				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を解剖学的構造を踏まえて講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。

〔到達目標〕

人体構造の概説を学び、それを踏まえて呼吸器、消火器、循環器(心臓、脈管)の構造について理解する。循環器については、その生理機能の調節についても理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

生理学(南江堂)、解剖学(南江堂)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	総論 ① 解剖学の意義・分類・用語	解剖学の意義と分類、人体の名称・位置・方向を示す用語を理解する。
2	総論 ② 細胞	人体を構成する細胞の基本的な構造と機能を理解する。
3	総論 ③ 組織(上皮組織、支持組織)	人体の器官を構成する組織の形態と特徴を理解する。
4	総論 ④ 組織(筋組織、神経組織)、発生	人体の器官を構成する組織の形態と特徴、人体の発生についての概要を理解する。
5	呼吸器系 ① 外鼻、鼻腔・副鼻腔	鼻腔と副鼻腔の構造を理解する。
6	呼吸器系 ② 喉頭、気管・気管支	喉頭、気管・気管支の構造を理解する。
7	呼吸器系 ③ 肺、縦隔	肺の構造と機能、縦隔に存在する器官を理解する。
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	消化器系 ① 総論、口・口腔	消化器の概要、口・口腔の構造を理解する。
10	消化器系 ② 咽頭、食道、胃	咽頭、食道、胃の構造を理解する。
11	消化器系 ③ 小腸、大腸	小腸と大腸の構造を理解する。
12	消化器系 ④ 肝臓、胆嚢(胆道)	肝臓と胆嚢の構造、胆汁の流路を理解する。
13	消化器系 ⑤ 膵臓、腹膜	膵臓の構造、腹膜に包まれる器官と包まれない器官を理解する。
14	復習	前期内容の復習を行う。
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認試験(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

資料中心による授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員			本多 剛	
授業科目名		生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を解剖学的構造を踏まえて講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。												
〔到達目標〕 人体構造の概説を学び、それを踏まえて呼吸器、消火器、循環器(心臓、脈管)の構造について理解する。循環器については、その生理機能の調節についても理解する。												
〔使用教材、参考文献等〕 生理学(南江堂)、解剖学(南江堂)												
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)									
1	脈管系 ① 総論		循環の種類、血管の種類と、それらの構造を理解する。									
2	脈管系 ② 心臓		心臓の構造を理解する。									
3	脈管系 ③ 動脈系(大動脈、東部・頸部、上肢)		動脈の分布を理解する。									
4	脈管系 ④ 動脈系(胸大動脈、腹大動脈)		動脈の分布を理解する。									
5	脈管系 ⑤ 動脈系(骨盤部、下肢)		動脈の分布を理解する。									
6	脈管系 ⑥ 静脈系		静脈の分布を理解する。									
7	脈管系 ⑦ 胎児循環、リンパ系		胎児にみられる循環の特徴とリンパの分布を理解する。									
8	中間テスト		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
9	循環 ① 心臓(機能、電氣的活動)		心臓の機能と電氣的活動の仕組みを理解する。									
10	循環 ② 心臓(心電図、活動周期)		心電図の波形と活動周期を理解する。									
11	循環 ③ 血管		血管の種類と、それらの機能を理解する。									
12	循環 ④ リンパ系		リンパ系の機能を理解する。									
13	循環 ⑤ 循環調節		血圧の調節を理解する。									
14	復習		復習を行う。									
15	期末テスト		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 資料中心による授業を行なう。								

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		生理学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞-組織-器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能を学修する。											
〔到達目標〕											
医療従事者として柔道整復師が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
生理学改訂第4版						専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	細胞の構造と機能					人体の細胞の基本的な機能と働きについて理解する。					
2	拡散・浸透・ろ過、受動輸送と能動輸送					物質の移動の仕組みを理解する					
3	血液の生理学:血液の役割、血液の組成					血液の様々な役割について理解する。また、血液の成分を理解する。					
4	免疫機能、血液型					血液の成分の中でも、特に免疫に関与する血液成分について理解を深める。					
5	血液凝固					血液の成分の中でも、特に止血に関する血液成分や、その仕組みについて理解を深める。					
6	体液の生理学:体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液の恒常性を維持するしくみ					体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みについて理解する。					
7	循環の生理学:心臓の機能、心筋の基本的性質					心臓の構造、役割について知り、その基本的な性質についての理解を深める。					
8	復習					授業で学んだ範囲について復習を行う。					
9	確認試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
10	呼吸の生理学(1)					呼吸の基本的構造と呼吸筋、換気量と残気量、について理解できる。					
11	呼吸の生理学(2)					酸素解離曲線とガス交換について理解できる。					
12	呼吸の生理学(3)					呼吸の調整機序と化学受容器について理解できる。					
13	呼吸の生理学(4)					呼吸の異常と特殊環境下の呼吸について理解できる。					
14	復習					授業で学んだ範囲について復習を行う。					
15	期末試験 解説										
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認試験(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。小テストは適宜実施するが、科目評価へ含まない。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	石野 竜平		
高齢者競技者の生理的特徴						時間数(単位)	30(2)	授業回数
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年にわたり、専門学校で生理学の教育に力をいれ、柔道整復師として必要な体の生理学及び、生物学の理解をより深めていく。</p>								
<p>[到達目標] 人体を理解するために必要な生物学、生理学の基礎を理解する。</p>								
[使用教材、参考文献等] 生理学(南江堂)、必要に応じプリントを配布する				[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	筋の構造と機能(1)			筋の種類と特徴、骨格筋の構造、筋収縮のしくみについて理解できる。				
2	筋の構造と機能(2)			筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さと聴力の関係について理解できる。				
3	筋の構造と機能(3)			筋収縮のエネルギー、筋電図、平滑筋、心筋について理解できる。				
4	骨の構造と機能(1)			骨の構造と成長、再吸収と再形成について理解できる。				
5	骨の構造と機能(2)			骨の代謝とホルモンの働き、病気について理解できる。				
6	体液の生理学(1)			体液の区分、恒常性維持について理解できる。				
7	体液の生理学(2)			体液ナトリウムイオン量の調節と体液量について理解できる。				
8	確認試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	呼吸の生理学(1)			呼吸の基本的構造と呼吸筋、換気量と残気量、について理解できる。				
10	呼吸の生理学(2)			酸素解離曲線とガス交換について理解できる。				
11	呼吸の生理学(3)			呼吸の調整機序と化学受容器について理解できる。				
12	呼吸の生理学(4)			呼吸の異常と特殊環境下の呼吸について理解できる。				
13	体温とその調節(1)			体温の生理的変動と熱の産生、熱放散のしくみについて理解できる。				
14	体温とその調節(2)			体温の調節とうつ熱、発熱について理解できる。				
15	期末試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。				[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		保健体育 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院で勤務し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。 専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。</p>											
<p>〔到達目標〕 柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 (医歯薬出版)						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業概要の説明					今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。					
2	骨と筋: 上肢1					トレーニングを通じて上肢の骨筋を理解する。					
3	骨と筋: 上肢2					トレーニングを通じて上肢の骨筋を理解する。					
4	骨と筋: 上肢3					トレーニングを通じて上肢の骨筋を理解する。					
5	骨と筋: 下肢1					トレーニングを通じて下肢の骨筋を理解する。					
6	骨と筋: 下肢2					トレーニングを通じて下肢の骨筋を理解する。					
7	骨と筋: 下肢3					トレーニングを通じて下肢の骨筋を理解する。					
8	確認試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	骨と筋の名称: 体幹1					トレーニングを通じて体幹の骨筋を理解する。					
10	骨と筋の名称: 体幹2					トレーニングを通じて体幹の骨筋を理解する。					
11	マシントレーニングとその応用1					トレーニングのマシンを利用して、上肢・体幹を連動させた動きを理解し、骨筋への理解を深める。					
12	マシントレーニングとその応用2					トレーニングのマシンを利用して、下肢・体幹を連動させた動きを理解し、骨筋への理解を深める。					
13	マシントレーニングの指導と注意点					マシントレーニングの指導を通じて、骨筋への理解を深め、指導ができるようになる。					
14	復習					これまでの復習を行い期末試験に備える。					
15	期末試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員 高橋 顕三先生			
授業科目名 保健体育 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院で勤務し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。 専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。</p>									
<p>[到達目標] 柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。</p>									
[使用教材、参考文献等] 解剖学 (医歯薬出版)					[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)					
1	一般的な関節の構造			関節の構造の基礎を理解する。					
2	各関節の構造1			上肢の関節の構造を理解し、トレーニングで動きを確認する。					
3	各関節の構造2			体幹と脊椎の関節の構造を理解し、トレーニングで動きを確認する。					
4	各関節の構造3			骨盤と股関節の関節の構造を理解し、トレーニングで動きを確認する。					
5	各関節の構造4			下肢の関節の構造を理解し、トレーニングで動くを確認する。					
6	各関節の連動			関節運動の連動性を意識して、トレーニングを組み立てる					
7	これまでの復習			各関節の構造について今まで学習した範囲を理解できる。					
8	確認試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	中間テストの解答・解説			中間テストの誤っている問題を理解する。					
10	身体のランドマーク1			頭部のランドマークを理解する。					
11	身体のランドマーク2			上肢のランドマークを理解する。					
12	身体のランドマーク3			体幹のランドマークを理解する。					
13	身体のランドマーク4			骨盤と下肢のランドマークを理解する。					
14	身体のランドマーク5			今までに学習したランドマークの復習を行い、理解する。					
15	期末試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		柔道 I		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道6段を持ち、江戸川区柔道会理事として青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。</p>											
<p>〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかりと覚え、基本動作を身に付ける。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着						〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業の流れの説明 柔道衣の名称と着用の仕方、礼法、準備体操					柔道の授業の全体像を把握できる。また、柔道着の正しい着用ができるようになる。					
2	礼法と受身 礼法(立礼・坐礼)、準備運動の手順・後受身					立礼と座礼を理解し、正しい礼法ができる。また、怪我をしないための後受身を習得する。					
3	礼法と受身 横受身・前受身					怪我をしないための横受身と前受身を習得する。					
4	礼法と受身 前方回転受身(説明)					怪我をしないための前方回転受身を習得する。					
5	礼法と受身 前方回転受身(個人練習)					前方回転受身の個人練習を行い、きれいな受身が取れるようになる。					
6	礼法と受身 前方回転受身(グループ学習)					前方回転受身のグループ練習を行うことで、お互いの受身で不十分な箇所を指摘しあえる。					
7	まとめ 試験前のポイント説明					ここまでの総復習をし、技術を習得する。					
8	確認試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	形(浮落の技のみ)と寝技(袈裟固めと防御) 実演して全体動作					浮落の動きを理解し、実際にできるようになる。 袈裟固を習得する。					
10	形(背負投の技のみ)と寝技(上四方固と防御) 実演して全体動作					背負投げの動きを理解し、実際にできるようになる。 上四方固の形を習得する。					
11	形(浮落立ち回り)と寝技(横四方固と防御) 実演して全体動作					浮落をきれいな形でできるようになる。 横四方固を習得する。					
12	形(背負投立ち回り)と寝技(縦四方固めと防御) 実演して全体動作					背負投をきれいな形でできるようになる。 縦四方固を習得する。					
13	形(浮落試験方式)と寝技(肩固と防御) 実演して全体動作					浮落の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。 肩固を習得する。					
14	形(背負投試験方式)と寝技(後袈裟固と防御) 実演して全体動作					背負投の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。 後固を習得する。					
15	期末試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認試験(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道6段を持ち、江戸川区柔道会理事として青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかり覚え、基本動作を身に付ける。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	型(浮腰)				実演して全体動作を習得する。				
2	型(払腰)				実演して全体動作を習得する。				
3	型(送足払)				実演して全体動作を習得する。				
4	型(支釣込腰)				実演して全体動作を習得する。				
5	形確認、寝技				浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。				
6	形確認、寝技				浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。				
7	技術復習				浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。				
8	確認試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	形(肩車)と技(大内刈と小内刈)				実演をして全体練習を行う、技の崩し方と体さばきの説明をし習得する。				
10	形(釣込腰)と技(膝車)				実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。				
11	形(内股)と技(膝車)				実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。				
12	形確認				実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。				
13	形確認				実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。				
14	期末試験予備試験				礼法と受身の確認、復習を行い習得する。				
15	期末試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	衛生学・公衆衛生学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
						大竹 千生			

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。

〔到達目標〕

国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 鈴木庄亮・小川正行・横山和仁・黒沢美智子・竹内一夫・谷川武 著

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	1章 公衆衛生学とは / 2章 健康の概念	公衆衛生学の意義、健康の定義やアプローチ等を理解する
2	人口統計 / 3章 予防の概念	人口静態・動態統計と主な指標、予防の3相5段階について知る
3	集団検診とスクリーニング / 4章 感染症の概要	集団検診とスクリーニングの意義・特徴、感染症の基礎知識や成立の3条件について知る
4	ウイルス感染症・細菌感染症・その他の感染症・院内感染	様々な感染症の特徴について知る。また院内感染の諸問題について理解する
5	感染症の予防対策(感染症法による類型と届け出制、等)	感染症の予防の原則は3条件への対策であることとその内容について知る
6	5章 消毒	消毒・滅菌等の定義とその方法について知る
7	6章 環境衛生(環境保健)の概要/地球環境/環境の把握・評価	環境の分類、環境と人との関係性、地球環境問題、環境の分析法等について知る
8	環境要因	主な物理的・化学的・生物的環境要因について知る
9	公害 / 空気の衛生 / 環境への行政的な取り組み 等	空気の正常・異常成分、環境への政策や管理、最近の環境問題について知る
10	7章 生活環境;水・住居・食品衛生	水に関する環境、住居環境、食中毒について知る
11	食品衛生活動・食品に関する法律とその内容 / 廃棄物処理	食の安全に関する行政施策やそのための法律と内容について知る。また、廃棄物の種類や処理法について知る
12	母子保健の意義・指標	母子保健の意義、用語、諸指標について知る
13	母子保健施策	市町村や都道府県が実施する母子保健施策について知る。
14	前期の振り返り / 試験について	前期を振り返り、期末試験に備える
15	期末試験 解説	テストにより理解度を測り、習得できていないところを把握し、知識を定着させる

〔評価について〕

講義内容についての小テスト実施、そのうちの4回分(40点満点)を評価対象とする / 期末試験(60点満点) 評価対象の小テスト;第2回、5回、9回、12回

〔特記事項〕

適宜、プリント配布

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
衛生学・公衆衛生学									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢献する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。									
〔到達目標〕									
国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕									
衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 鈴木庄亮 他 著									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	9章 学校保健の意義 / 学校保健の対象 / 関係職員	学校保健の特徴や対象、関係する常勤・非常勤職員について知る							
2	学校保健の領域; 保健教育・保健管理・組織活動 / 10章 産業保健の意義 / 労働衛生3管理 / メンタルヘルスケア	保健教育・保健管理の内容と管轄する法律について知る また、産業保健の概要について知る							
3	業務上疾病の発生状況 / 職業性疾病	発生が多い業務上疾病について、また職業性疾病の主なものについて知る							
4	産業保健における健康診断と事後措置 / THP / 11章 成人・高齢者保健の意義・特徴 / 生活習慣病(悪性新生物)	3つの健康診断と事後措置、THPについて知る / 成人・高齢者の健康状態と悪性新生物について知る							
5	主な生活習慣病 / 高齢者福祉・介護保険/認知症施策	主な生活習慣病の特徴や現状について知る / 高齢者や認知症の者への対策について知る							
6	12章 精神保健の意義と法律の変遷 / 精神保健活動と医療形態	精神保健福祉法と障害者総合支援法の概要について知る / 精神保健の地域での活動拠点、医療について知る							
7	様々な精神障害 / 障害者への法律。施策、概念	精神障害や心の不健康状態の特徴、障害者全般に対する法律や施策、バリアフリー等の概念について知る							
8	13章 地域保健の概要・進め方 / 地域保健に関する法律とその内容/WHOの概要	地域社会の捉え方、PDCAサイクル、地域保健法の概要、医療法による医療計画の記載事項、WHOについて知る							
9	国際保健 / 14章 衛生行政の体系 / 地域保健法による行政機構 等	国際的な取り決め、国際協定について知る / 一般衛生行政等の体系と責務、医療法の目的等、について知る							
10	医療法による医療施設の定義 / 医療従事者の業務・名称独占 / 医療保険制度 / 公費(負担)医療/国民医療費	病院等の定義、業務・名称独占資格、医療保険制度の種類・仕組み、公費医療、国民医療費の現状について知る							
11	国民健康づくり / 法令の定義 / 医の倫理 / 医療事故とリスクマネジメント	健康づくり対策の変遷と現在、法令等の定義について知る / 医の倫理観 等について知る							
12	15章 疫学の概要 / 疫学の指標・方法	疫学の特徴、調査方法等について知る							
13	誤差とバイアス、交絡要因 / 因果関係 / 人年法 / ICD	疫学調査での誤差、因果関係の判定基準、人年法、ICDについて知る							
14	後期の振り返り / 試験について	後期を振り返り、期末試験に備える							
15	期末試験解説	習得した知識の確認を行い、公衆衛生学の意義を改めて考えるための一助とする							
〔評価について〕					〔特記事項〕				
講義内容についての小テスト実施、そのうちの4回分(40点満点)を評価対象とする / 期末試験(60点満点) 評価対象の小テスト; 第2回、5回、10回、12回					適宜、プリント配布				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	前期	担当教員	
授業科目名	職業倫理	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15 (1)
						瑞泉 誠 先生	授業回数
							8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、実際に医療現場で起こり得る具体的な事例を挙げながら、グループワークなどを用いて学生にその対策を考えさせる授業を行う。

〔到達目標〕
 柔道整復師として、人々の健康づくりに携わる医療人として求められる知識や教養、倫理観の習得を目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学(南江堂) 必要に応じプリントを配布する	〔準備学習・時間外学習〕 毎回の授業内容を自宅で復習し、職業倫理に関する自分の考えをまとめておく。
--	--

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	医療従事者の職業倫理(1)	職業倫理の意味と必要性について考え、倫理観を高める。
2	医療従事者の職業倫理(2)	現代的倫理観の経緯を説明できる。
3	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応(1)	インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントを理解する。
4	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応(2)	医療従事者の守秘義務を理解する。
5	柔道整復師の社会的責任と対応(1)	医療契約を理解し、説明が出来る。
6	柔道整復師の社会的責任と対応(2)	医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハットを理解する。
7	医療における情報と責任	患者の個人情報保護を理解し説明が出来る。
8	単位認定試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。	〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。
-------------------------	---

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	前期	担当教員	
授業科目名	社会保障制度	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15 (1)
						瑞泉 誠 先生	授業回数
							8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、現在の日本の社会保障制度の仕組みや保障内容についての授業を行う。授業の中で、グループワークなどを用いて学生自身に考えさせることで、より理解を深める。

〔到達目標〕

柔道整復師になるにあたって必要な、現在の日本の社会保障制度についての仕組み・種類や、具体的な保障内容について知る。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学(南江堂)
必要に応じプリントを配布する

〔準備学習・時間外学習〕

毎回の授業内容を自宅で復習し、社会保障制度に関する自分の考えをまとめておく。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	社会保障とは	社会保障の内容・機能を理解する。
2	社会保険制度とは	社会保険制度の種類や仕組みを理解する。
3	医療保険制度(1)	医療保険の目的や現状について理解する。
4	医療保険制度(2)	保険診療の概要を理解し説明することが出来る。
5	療養費制度	療養費制度の概要を理解し説明することが出来る。
6	柔道整復療養費(1)	柔道整復療養費概要を理解し説明することが出来る。
7	柔道整復療養費(2)	柔道整復療養費の算定や推移を理解し説明することが出来る。
8	単位認定試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員 大野 智子 先生			
授業科目名 外傷の保存療法		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床で必要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。</p>									
<p>[到達目標] 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。</p>									
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 配布資料					[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしてくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)					
1	診察			施術録の扱いについて理解する。					
2	治療法1			骨折、脱臼の整復法について理解する。					
3	治療法2			軟部組織損傷の初期処置について理解する。					
4	治療法3			固定法について理解する。					
5	治療法4			後療法である手技療法について理解する。					
6	治療法5			後療法である運動療法について理解する。					
7	治療法6			後療法である物理療法(電気療法)について理解する。					
8	単位認定試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
[評価について] 評価は筆記試験で行う。					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	物理療法機器の取り扱い		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	
							大野 智子 先生	授業回数	8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床に必要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。

〔到達目標〕
 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。

〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料	〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。
--	--

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	治療法(後療法)1	物理療法(温熱療法、伝導熱療法)を理解する。
2	治療法(後療法)2	物理療法(輻射熱療法、変換熱療法)を理解する。
3	治療法(後療法)3	物理療法(光線療法)を理解する。
4	治療法(後療法)4	物理療法(寒冷療法)を理解する。
5	治療法(後療法)5	物理療法(牽引療法)を理解する。
6	治療法	指導管理について理解をする。
7	外傷予防	外傷予防を段階別に(1~3段階)指導する方法を理解する。
8	単位認定試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。	〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。
-------------------------	---

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	前期	担当教員 三浦 千栄先生	
授業科目名	基礎柔道整復学 I	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2) 授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。

〔到達目標〕

柔道整復学の総論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編 第7版

〔準備学習・時間外学習〕

予め教科書を読み予習をしてくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	人体に加わる力 損傷時に加わる力①	人体に加わる力の語句とその意味を理解する。 損傷時に加わる力の種類を理解する。
2	損傷時に加わる力② 骨の形態と機能	損傷時の力に影響を与える要素を理解する。 骨の基本的解剖と役割を理解する。
3	骨の損傷①	骨折の定義を理解する。 骨折の性状による分類を理解する。
4	骨の損傷②	骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方を理解する。
5	骨の損傷③	骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方の理解を深める。
6	骨の損傷④	骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方の理解を深め、正しく分類分けできるようになる。
7	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	骨折の症状	骨折の全身症状と局所症状を理解する。
9	骨折の合併症①	骨折の併発症と続発症を理解する。
10	骨折の合併症②	骨折の併発症と続発症を理解し、どのような症状が出るのかを理解する。
11	骨折の合併症③	骨折の後遺症について知る。
12	骨折の合併症④	骨折の後遺症について知り、どのような症状が出るか理解する。
13	小児骨折・高齢者骨折の特徴 骨折の癒合日数	年齢層によって注意しなければならない骨折の症状と骨癒合日数を理解する。
14	骨折の治癒過程	骨折の治癒過程と、骨折治癒に影響を与える要因を理解する。
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認試験(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	後期	担当教員 三浦 千栄先生		
授業科目名 基礎柔道整復学 I	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。

[到達目標]

柔道整復学の総論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。

[使用教材、参考文献等]

柔道整復学・理論編 第6版

[準備学習・時間外学習]

予め教科書を読み予習をしてくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	鎖骨骨折①	鎖骨部の解剖、鎖骨骨折を理解する。
2	鎖骨骨折②	鎖骨骨折の合併症、整復固定などを理解する。
3	肩甲骨の骨折①	肩甲骨の機能解剖を理解する。 肩甲骨体部骨折、上・下角骨折を理解する。
4	肩甲骨の骨折②	肩甲骨関節窩骨折、頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折を理解する。
5	上腕骨近位部骨折①	肩関節の機能解剖を理解する。 上腕骨骨頭骨折を理解する。
6	上腕骨近位部骨折②	上腕骨解剖頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折を理解する。
7	上腕骨近位部骨折③	上腕骨外科頸骨折、上腕骨近位骨端線離開を理解する。
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	上腕骨骨幹部骨折①	骨間部骨折の発生機序、症状について理解する。
10	上腕骨骨幹部骨折②	骨幹部骨折の合併症、整復法について理解する。
11	上腕骨顆上骨折①	骨間部骨折の発生機序、症状について理解する。
12	上腕骨顆上骨折②	骨幹部骨折の合併症、整復法、固定法について理解する。
13	上腕骨外顆骨折	骨折の発生機序、症状、合併症、整復法について理解する。
14	上腕骨内側上顆骨折	骨折の発生機序、症状、合併症、整復法について理解する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていない箇所を把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は確認試験(40点)と期末試験(60点)の100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。□

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座		
基礎柔道整復学Ⅱ						時間数(単位)	30(2)	授業回数 15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。</p>								
<p>[到達目標]</p> <p>柔道整復学と運動器との関連を知ることで、傷害に対して正しく治療や診断を行うための基礎を養う。</p>								
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編(南江堂) 必要に応じプリントを配布する				[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	授業概要の説明			今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。				
2	運動器の構造と柔道整復学について1			上腕の骨と柔道整復学の関連について学習する				
3	運動器の構造と柔道整復学について2			前腕の骨と柔道整復学の関連について学習する				
4	運動器の構造と柔道整復学について3			頭部体幹の骨と柔道整復学の関連について学習する				
5	運動器の構造と柔道整復学について4			骨盤の骨と柔道整復学の関連について学習する				
6	運動器の構造と柔道整復学について5			大腿の骨と柔道整復学の関連について学習する				
7	運動器の構造と柔道整復学について6			下腿の骨と柔道整復学の関連について学習する				
8	確認試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	運動器の構造と柔道整復学について1			上腕の筋と柔道整復学の関連について学習する				
10	運動器の構造と柔道整復学について2			前腕の筋と柔道整復学の関連について学習する				
11	運動器の構造と柔道整復学について3			頭部体幹の筋と柔道整復学の関連について学習する				
12	運動器の構造と柔道整復学について4			骨盤の筋と柔道整復学の関連について学習する				
13	運動器の構造と柔道整復学について5			大腿の筋と柔道整復学の関連について学習する				
14	運動器の構造と柔道整復学について6			下腿の筋と柔道整復学の関連について学習する				
15	単位認定試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。

〔到達目標〕

柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。
 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。
 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	鎖骨の脱臼1	肩鎖関節脱臼を理解する。
2	鎖骨の脱臼2	胸鎖関節脱臼を理解する。
3	肩関節脱臼1	肩関節脱臼の分類と、肩関節前方脱臼を理解する。
4	肩関節脱臼2	肩関節後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼、反復性肩関節脱臼を理解する。
5	肩関節脱臼3	肩関節後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼、反復性肩関節脱臼の整復法、固定法について理解する。
6	肘関節脱臼1	両骨脱臼について理解する。
7	肘関節脱臼2	橈骨単独脱臼・肘内障について理解する。
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	手関節・手指部の脱臼(1)	遠位橈尺関節脱臼および橈骨手根関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
10	手関節・手指部の脱臼(2)	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
11	手関節・手指部の脱臼(3)	CM関節脱臼および、第1MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
12	手関節・手指部の脱臼(4)	第2～5MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
13	手関節・手指部の脱臼(5)	PIP関節脱臼およびDIP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
14	復習	範囲の復習を行う。
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
基礎柔道整復学Ⅲ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。									
〔到達目標〕									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(南江堂) 必要に応じプリントを配布する					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	授業概要の説明	今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。							
2	柔道整復学と消化器について1	柔道整復学にも関連のある消化器の概要を知ること で体の構造を理解し、合併症への理解を深める。							
3	柔道整復学と消化器について2	柔道整復学にも関連のある消化器の概要を知ること で体の構造を理解し、合併症への理解を深める。							
4	柔道整復学と呼吸器について1	柔道整復学にも関連のある呼吸器の概要を知ること で体の構造を理解し、合併症への理解を深める。							
5	柔道整復学と呼吸器について2	柔道整復学にも関連のある呼吸器の概要を知ること で体の構造を理解し、合併症への理解を深める。							
6	柔道整復学と循環について	循環について理解を深めることで、骨折や組織損傷時に合併する損傷の理解を深める							
7	復習	習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
9	柔道整復学と神経について1	中枢神経の概要を知ること、関連のある合併症や傷害への理解も深めていく							
10	柔道整復学と神経について2	脊髄神経の概要を知ること、関連のある合併症や傷害への理解も深めていく							
11	柔道整復学と神経について3	末梢神経の概要を知ること、関連のある合併症や傷害への理解も深めていく							
12	柔道整復学と感覚器について1	感覚器の概要を知ること、傷害時の合併症への理解を深める							
13	柔道整復学と感覚器について2	感覚器を詳しく知ること、傷害時の合併症への理解を深める							
14	復習	習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
15	単位認定試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年 1	開講区分 後期	担当教員 集中講座
授業科目名 基礎柔道整復学Ⅲ	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(2) 授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。

〔到達目標〕

柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。
傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。
傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編 (医歯薬出版)
柔道整復学・実技編 (医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	関節の損傷 関節の構造と機能	関節損傷に関する基本用語を知る。 関節の構造と、機能・形状による分類を理解する。
2	関節の損傷:軟骨組織	関節軟骨の組成と、損傷時の特徴を理解する。
3	関節の損傷:関節包、滑液、靭帯、関節円板、滑液包、関節唇、血管、神経	関節包、滑液、靭帯、関節円板、滑液包、関節唇、血管、神経の役割と損傷時の特徴を理解する。
4	関節損傷の分類、関節構成組織損傷①	関節損傷について理解し、関節を構成する組織の損傷についてそれぞれの特徴を理解する。
5	関節構成組織損傷②	関節損傷について理解し、関節を構成する組織の損傷についてそれぞれの特徴を理解する。
6	脱臼の定義と概説、発生頻度、分類①	脱臼の定義を理解し、捻挫との違いを知る。
7	脱臼の分類②	どのような分類があるか理解する。
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	脱臼の症状	脱臼の固有症状を理解し、鑑別ができるようになる。
10	脱臼の合併症・整復障害	脱臼の合併症と、その症状について理解し、鑑別できるようにする。また、整復障害となるものについて理解する。
11	筋の損傷①	筋の構造と機能について理解し、筋損傷が発生する要因や症状について理解する。
12	筋の損傷② 腱の損傷①	筋損傷の分類、症状、治癒機序について理解する。また、腱の構造と機能について理解し、腱損傷が発生する要因や症状について理解する。
13	腱の損傷② 末梢神経の損傷①	腱損傷の分類、治癒機序について理解する。また、末梢神経の機能と構造について理解する。
14	末梢神経の損傷②	末梢神経損傷が発生する要因や症状について理解する。また、治癒機序について理解する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。
授業ごとに小テストを行う。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員 三浦 千栄 先生 三浦 光一 先生	
授業科目名 柔道整復実技 I		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1) 授業回数 15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、包帯法と固定学の基礎知識と技術を指導する。包帯法は柔道整復師として絶対に必要な基本的技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>上肢と下肢の基本包帯法の習得を目指す。また実践を通じて包帯法の留意点や応用方法を理解する。</p>							
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <p>柔道整復学・実技編 包帯固定法(医歯薬出版)</p>							
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)					
1	包帯固定学 概説	包帯固定学の基礎的な目的や範囲、肢位、固定材料について理解する。					
2	巻き方	基礎、基本包帯法を理解する。					
3	基本包帯固定法1	手関節から肘関節までの包帯固定法を習得する。					
4	基本包帯固定法2	肘関節から肩関節までの包帯固定法を習得する。					
5	基本包帯固定法3	前腕部から手指までの包帯固定法を習得する。					
6	基本包帯固定法4	頭部の包帯固定法を習得する。					
7	総合復習	これまでの包帯法を復習し基礎の習得をする。					
8	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	基本包帯固定法5	三角筋の使い方と上肢以外の使用方法、固定法を習得する。					
10	基本包帯固定法6	下肢の股関節から大腿部までの基本包帯法を習得する。					
11	基本包帯固定法7	下肢の膝関節周囲の基本包帯法を習得する。					
12	基本包帯固定法8	下腿部から足関節までの基本包帯法を習得する。					
13	基本包帯固定法9	足趾の基本包帯法を習得する。					
14	総合復習	これまでの包帯法を復習し基礎の習得をする。					
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
<p>[評価について]</p> <p>評価は実技試験で行う。試験は確認試験(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>				<p>[特記事項]</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>			

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						三浦 千栄 先生 三浦 光一 先生			
柔道整復実技 I		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、テーピングの基礎知識と技術を指導する。テーピングはどの現場においても必要な技術となるため自主練習に励み、1年間のうちその基礎を養ってほしい。									
〔到達目標〕									
柔道整復師として、臨床に必要なテーピングの基礎知識とその技術を習得する。									
〔使用教材、参考文献等〕									
柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 柔道整復学・実技編 (医歯薬出版) テーピングのポイントはこれだ!									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	冠名包帯1	デゾー包帯の習得をする。							
2	冠名包帯2	デゾー包帯の習得をする。							
3	冠名包帯3	ウェルポー包帯の習得をする。							
4	冠名包帯4	ウェルポー包帯の習得をする。							
5	冠名包帯5	ジュール包帯の習得をする。							
6	冠名包帯6	ジュール包帯の習得をする。							
7	総合復習1	今までの固定法、整復法について復習を行い、習得する。							
8	総合復習2	今までの固定法、整復法について復習を行い、習得する。							
9	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
10	ギプス固定1	キャストライトを用いた手関節の固定を実施する。							
11	ギプス固定2	キャストライトを用いた足関節の固定を実施する。							
12	ギプス固定3	石膏ギプスを用いた固定を実施する。							
13	ギプス固定4	プライトンを用いた固定を実施する。							
14	総合復習1	今までの固定法、整復法について復習を行い、習得する。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は実技試験で行う。 試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						大野 智子 先生			
柔道整復実技Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が指導する。									
〔到達目標〕 柔道整復師の実施することのできる運動療法や治療法、整復固定を理解し、実践で活かせる技術を習得する。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけること				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	授業概要の説明				今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。				
2	整復法の概要				整復法とそれに必要な体の使い方など基礎を学ぶ				
3	固定術の概要				整復法とそれに必要な体の使い方や実技など基礎を学ぶ				
4	後療法の概要1				後療法の基礎知識を学び、理解する。				
5	後療法の概要2				後療法の実技を学び、グループワークを通じて実技練習を行う				
6	後療法の実技				後療法の実技を学び、グループワークを通じて実技練習を行う				
7	復習				習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	確認試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	運動療法の概要1				上肢の傷害に対する運動療法の基礎を学び、実践する				
10	運動療法の概要2				体幹の傷害に対する運動療法の基礎を学び、実践する				
11	運動療法の概要3				下肢の傷害に対する運動療法の基礎を学び、実践する				
12	運動療法の応用1				上肢と体幹を関連させた運動療法を理解し、実施する				
13	運動療法の応用2				下肢と体幹を関連させた運動療法を理解し、実施する				
14	復習				鎖骨の絆創膏固定法について習得する。				
15	期末試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テストと期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年 1	開講 区分 後期	担当教員 集中講座
授業科目名 柔道整復実技Ⅱ	必修/ 選択 必修	授業 形態 実技	時間数 (単位) 30 (1) 授業 回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、骨折、脱臼のその症状と状態に準じた固定、包帯法を指導する。 将来、臨床に出た際に必ず必要になる技術を学生のうちからしっかりと学び、有資格者としての準備をして欲しい。 技術の反復練習を積極的に行ってもらおう。			
〔到達目標〕 柔道整復師として一番の強みであり、仕事となる各骨折、脱臼に対する整復法、固定法を理解し習得する。			
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)		〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。	
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)	
1	概要・注意事項・持ち方、切り方、貼り方	テーピングの基本知識を理解し、基本を習得する。	
2	下腿、大腿部のテーピング	肉ばなれのテーピングを習得する。	
3	手関節・指関節のテーピング	手関節・指の各関節のテープを習得する。	
4	肘関節のテーピング	内側側副靭帯、肘の伸展制限のテープを習得する。	
5	肩関節のテーピング	肩鎖関節、肩関節前方脱臼のテープを習得する。	
6	確認試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
7	膝関節のテーピング1	内側側副靭帯のテープを習得する。	
8	膝関節のテーピング2	前十字靭帯のテープを習得する。	
9	足関節のテーピング1	足関節のアンダーラップを習得する。	
10	足関節のテーピング2	足関節のホースシューまで習得する。	
11	足関節のテーピング3	足関節を全てホワイトで巻くことを習得する。	
12	足関節のテーピング4	きれいに巻けるように練習する。	
13	足関節のテーピング5	5分以内で仕上げられるよう練習する。	
14	復習	これまでのテーピングの巻き方を復習し、正確に巻けるようにする。	
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。		〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。	

冠名包帯法、鎖骨骨折整復固定、肩鎖関節脱臼整復固定

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		キャリアデザイン講座		必修/選択	必修	授業形態	その他	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年、整形外科で勤務し、整形外科疾患や外傷に対するリハビリテーションを行ってきた柔道整復師専科教員が、個人ワークやグループワークを取り入れながら、社会人として必要な資質やコミュニケーション能力を身につける。また、講演や演習を通じて社会人や医療人について理解してほしい。</p>											
<p>[到達目標] 社会人、柔道整復師になることに対する意欲を高め、卒業後の自己を構想できるようになる。また、将来に限らず学生生活をさらに充実させるきっかけをつくる。</p>											
[使用教材、参考文献等]						[準備学習・時間外学習] 社会人としてのマナーをあらかじめ調べておくことが望ましい。					
回	[授業概要]					到達目標(できるようになること)					
1	導入研修Ⅰ 柔道整復師の成り立ちと資格の意義					柔道整復師の歴史を知り、資格の業務範囲等を理解する。					
2	導入研修Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅰ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術を知る。					
3	導入教育Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅱ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術に関する理解を深める。					
4	導入研修Ⅰ 柔道整復師の職域について					柔道整復師の業務範囲についての理解を深める。					
5	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、お互いのことについて知る。					
6	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、相互理解を深める。					
7	導入研修Ⅰ 目標設定(目標としての柔道整復師像)					将来の自分の柔道整復師としての目標を立て、卒業後の将来像を想像する。					
8	外部研修 柔道整復師の各職域に必要な知識・技術					柔道整復師が活躍できる、様々な現場に必要な知識、技術を知ることができる。					
9	外部研修 在学中のキャリア設計と卒後のキャリア開発について					卒業後の具体的な目標を立て、それを実現するために在学中にすべきことを計画する。					
10	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(治療院)					治療院で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。					
11	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(トレーナー他)					トレーナーとしてスポーツ現場で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。					
12	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					卒業して社会人となった時に必要なマナーを知り、それを実践できるようにする。					
13	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					柔道整復師として働いた時に必要な接遇を知り、それを実践できるようにする。					
14	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。					
15	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。					
[評価について] 出席 レポート提出						[特記事項]					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	集中講座		
臨床前施術試験等						時間数(単位)	30(1)	授業回数
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。</p>								
<p>[到達目標]</p> <p>臨床の現場に出るにあたり必要なスキルを身に付けることを目的とする。</p>								
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <p>柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料</p>				<p>[準備学習・時間外学習]</p> <p>専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション			臨床実習の概要について理解し、全体像を把握する。				
2	医療面接①			患者を問診するにあたって必要になる知識を理解し、説明が出来る。				
3	傷害と評価(肩関節)			肩関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
4	可動域測定			測定法や関節可動域表示が評価・診断書等に活用されることを理解する。				
5	医療面接②			問診の仕方、問診表を理解し、書くことが出来る。				
6	傷害と評価(肘関節)			肘関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
7	医療面接③			問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。				
8	傷害と評価(腰)			腰部の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
9	傷害と評価(膝関節1)			膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
10	傷害と評価(膝関節2)			膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
11	医療面接④			問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。				
12	傷害と評価(足関節)			足関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
13	復習			問診から評価までの流れを理解し、実践できる。				
14	復習			問診から評価までの流れを理解し、実践できる。				
15	単位認定試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
<p>[評価について]</p> <p>評価は実技試験で行う。 試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。</p>				<p>[特記事項]</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>				